

# 変額年金（特別勘定）の現況

## 変額年金(最低年金原資保証タイプ)の運用状況

2021年9月末



- 当資料記載の運用実績は、過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料は変額年金保険「最低年金原資保証タイプ」「特別勘定選択タイプ（最低年金原資保証不適用型）」の運用状況について、ご契約者の皆様への情報提供を目的として作成したものであり、生命保険契約の募集を目的とするものではありません。

# 変額年金（特別勘定）の現況をご覧になる方に、 特にご確認いただきたい事項

## ■ 投資リスクについて

- 変額年金保険の特別勘定の資産運用は、国内外の株式および公社債、国内外のその他の有価証券、貸付金、コールローンおよび預貯金等を主な運用対象としておりますので、株価の下落や金利の変動、為替の変動などにより年金額、積立金額、解約返戻金額等が一時払保険料を下回る場合があります、損失が生じるおそれがあります。

※死亡保険金額は一時払保険料の額を基本保険金額として最低保証いたします。

※最低年金原資保証不適用特約が付加されたご契約（特別勘定選択タイプ）については年金開始日の前日における積立金額（年金原資）について一時払保険料相当額の最低保証はございません。

## ■ 解約返戻金について

- 積立期間中（年金開始前）に限り、いつでも将来に向かって、保険契約を解約（減額）することができます。
- 契約日より10年以内にご契約を解約（減額）された場合にお支払する解約返戻金額は、解約（減額）日の積立金額に、経過年数に応じた下記の【解約控除率】の解約控除率を乗じた金額を、積立金から差し引いた金額となります。したがって、ご契約から短期間で解約された場合、運用実績がプラスの場合でもお払いいただいた一時払保険料より少ない金額となり、損失が生じるおそれがあります。
- 解約返戻金は、特別勘定の運用実績によって毎日変動します。また、最低保証はなく、株価の下落や金利の変動、為替の変動などにより一時払保険料を下回る場合があります、損失が生じるおそれがあります。
- 年金開始日以後の解約（減額）はできません。
- 減額後の基本保険金額は、会社所定の金額以上であることを要します。

### 【解約控除率】

経過年数	解約控除率
0年	7.0%
1年	6.3%
2年	5.6%
3年	4.9%
4年	4.2%
5年	3.5%
6年	2.8%
7年	2.1%
8年	1.4%
9年	0.7%
10年	0.0%

※経過年数は契約日から解約日までの年数とします。

※1年未満の月数が端数として生じたときは経過年数により期間按分して、解約控除率を計算します。（月未満の端数日数は切り捨てます。）

## ■ ご契約にかかる費用について

- 変額年金保険では、保険期間中つぎのような諸費用をお客様にご負担いただきます。諸費用は、積立金より控除いたします。以下の他、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、ユニットバリューに反映することとなります。したがって、お客様はこれらの費用を間接的に負担することとなります。

### ○積立期間中の費用

名称	ご負担いただく時期	概要
保険契約管理費 (※1)	毎日	特別勘定の資産額に対して年率1.12%(1日あたり1.12%/365)をユニットバリュー算出時に特別勘定資産より控除
最低年金原資保証コスト(最低年金原資保証タイプご加入の方のみ)(※2)	毎月月初	毎月月初その日の前日末の積立金額に対して下記【積立期間と最低年金原資保証コスト(年率)】の年率の12分の1を積立金額から控除(控除は保有口数の減少で行います)
積立金移転手数料(特別勘定選択タイプご加入の方のみ)(※3)	積立金移転時	同一保険年度内の積立金の移転回数 <sup>が</sup> 12回以内のとき無料 12回を超えると1回あたり1000円を積立金額から控除
解約控除	解約・減額時	上記【解約控除率】をご参照下さい。

※1 保険契約管理費とは以下の①～③の合計です。

- ①基本保険金額を死亡保険金額の最低保証とするための費用
- ②災害死亡保険金のための費用
- ③会社の経費に充てるための費用

※2 最低年金原資保証コストは最低年金原資保証タイプのみ、ご負担いただきます。

※3 積立金移転手数料は最低年金原資保証不適用特約が付加された特別勘定選択タイプ(最低年金原資保証不適用型)のみ、ご負担いただきます。

【積立期間と最低年金原資保証コスト(年率)】(最低年金原資保証タイプご加入の方のみ)

積立期間	年率	積立期間	年率	積立期間	年率
10年	0.98%	17年	0.35%	24年	0.20%
11年	0.87%	18年	0.31%	25年	0.19%
12年	0.76%	19年	0.28%	26年	0.18%
13年	0.64%	20年	0.24%	27年	0.17%
14年	0.53%	21年	0.23%	28年	0.16%
15年	0.42%	22年	0.22%	29年	0.15%
16年	0.38%	23年	0.21%	30年以上	0.14%

※積立期間は、契約日から年金開始日までの年数とします。

## ○年金支払期間中の費用

名称	ご負担いただく時期	概要
年金管理費	年金開始日以降の年金支払日	年金月額に対して1%

## ○信託報酬等(原則、特別勘定選択タイプご加入の方のみ)

投資信託を投資対象とするファンドには下記の信託報酬がかかります。(2019年10月1日より消費税率が8%から10%に変更されたことに伴い、信託報酬も新消費税率が適用されています。)また、下記以外に、組み入れている投資信託の監査費用がかかります。

2019年10月1日現在

利用するファンド	信託報酬
ワールド・ミックス40(バランス指向)	年0.56%(税込)
ワールド・ミックス60(成長指向)	年0.57%(税込)
ワールド・ミックス80(積極指向)	年0.69%(税込)

※上記の数値は、各特別勘定が保有する複数の投資信託の合計残高に対する平均的な割合です。ご契約者に公表する運用結果は、上記の費用を差し引いた後の金額となります。

※上記の数値は将来にわたって変更される場合があります。

※「マネープール」ファンドについては自社運用のため、信託報酬はかかりません。

## ＜変額年金(最低年金原資保証タイプ)の運用状況＞



## [9月の運用環境]

## ＜国内市場＞

## ・株式市場

国内株式市場は、上昇しました。

月前半は、菅首相の自民党総裁選不出馬の報道を受け、総選挙への思惑や新政権による経済対策への期待などから、上昇しました。国内の新型コロナウイルス新規感染者数の減少や、ワクチン接種の進展なども好感されました。月後半は、中国大手不動産開発会社の債務問題に対する警戒感や、FOMC通過後の米長期金利の上昇を受け、米国株式市場が下落したことなどが重石となり、軟調に推移しました。月末には、自民党総裁選で岸田氏が選出されたものの、国内株式市場は下落が続きませんでした。

月末の日経平均株価は29,452.66円で終了しました。

## ・債券市場

国内債券市場では、10年国債利回りが上昇しました。

月前半は、菅首相の自民党総裁選への不出馬表明による事実上の退陣表明を受けて、国内株式が急上昇したことによる市場のリスク回避姿勢の後退から国債の売りが優勢となり、利回りは上昇しました。また、新政権による大型経済対策への期待の高まりにより、財政支出拡大による国債増発が警戒された面もありました。月後半は、米国において、FOMCで年内の量的金融緩和の縮小開始が強く示唆されたほか、FOMC参加者の利上げ時期予想も前倒しされたことで米長期金利が上昇した影響から、利回りは月末にかけてさらに上昇しました。

月末の10年国債利回りは0.065%で終了しました。

## ＜海外市場＞

## ・外株市場

米国株式市場は、下落しました。

月前半は、8月の雇用統計で非農業部門雇用者数の伸びが市場予想を下回ったことなどから先行きの景気回復に対する楽観的な見方が後退したことや、供給制約によるインフレ高止まりが懸念されたことなどから軟調に推移しました。月後半は、中国大手不動産開発会社の債務問題により市場心理が悪化したほか、つなぎ予算関連法案と債務上限延長法案の成立における与野党協議の難航から政府閉鎖や国債の債務不履行が警戒されたことなどにより下落しました。

欧州株式市場は、下落しました。

月前半は、ECB高官によるタカ派的な発言などが嫌気され軟調に推移しました。月後半は、中国各地で大規模な電力供給制限が行われ電力不足による同国経済の成長減速が懸念されたことや、欧州エネルギー市場において天然ガスの高騰に伴う電力価格の急上昇が嫌気されたことなどを背景に下落しました。

月末のNYダウは33,843.92ドルで、ドイツDAX指数は15,260.69で終了しました。

## ・外債市場

米国10年国債利回りは、上昇しました。

月初から中旬まで、利回りは1.3%台前半を中心にレンジ内で推移しました。下旬には、FOMCで年内の量的金融緩和の縮小開始が強く示唆され、FOMC参加者の利上げ時期予想も前倒しされたこと、また、原油先物が一段高となったことやFRB議長が供給制約によるインフレ高止まりの可能性に言及したことなどから、利回りは一時1.5%を超える水準まで急上昇しました。

ドイツ10年国債利回りは、上昇しました。

ECBが新型コロナウイルス感染拡大対応の金融緩和を縮小するとの観測が高まったこと、また、ノルウェーが利上げを実施したことやBOEがインフレ加速の見通しを示したことなど欧州内の中央銀行が金融政策の正常化に前向きな姿勢を強めた影響から、利回りは月を通じて上昇しました。

月末の米国10年国債利回りは1.488%で、ドイツ10年国債利回りは▲0.200%で終了しました。

## ・為替市場

米ドルは対円で上昇となりました。

月前半は、米国における冴えない経済指標結果などを背景に上値の重い展開となりました。しかし、下旬にFOMCで年内の量的金融緩和の縮小開始が強く示唆され、FOMC参加者の利上げ時期予想も前倒しされたことでドル買いが優勢となりました。月末にかけても、米長期金利の上昇とともに、ドル円は騰勢を強めました。

ユーロは対円で上昇となりました。

月初は、ECBによる資産買入ペース減速観測が強まりユーロ円は上昇しました。しかし、その後は域内景気回復ペースの鈍化やドイツ政局の混迷等への懸念からユーロ円は下落に転じました。月末にかけては、欧州金利の上昇を背景に再び上昇しました。

月末のドル円は111.92円で、ユーロ円相場は129.86円で終了しました。

2021年9月度

## マンスリー レポート

<変額年金(最低年金原資保証タイプ)の運用状況>



[ユニットバリュー]

日付	当月末	前月末
ユニットバリュー	131.7447	130.4468

\*ユニットバリューとは、各特別勘定の運用開始時を100として、「持ち分1口当たりの価値」を意味します。  
特別勘定の運用実績により日々変動します。

日付	当月	直近3ヶ月	直近1年	設定来伸び率(%)
伸び率	0.99%	1.33%	6.67%	31.74%

[資産配分の推移(時価ベース)]

(単位:百万円、%)

	2021年9月末		基本資産配分
	金額	構成比	
短期資金等	41	1.0	20.0
国内債券	2,766	68.2	50.0
国内株式	1,251	30.8	30.0
外国債券	0	0.0	0.0
外国株式	0	0.0	0.0
合計	4,058	100	100

[9月の運用経過]

<運用内容>

以上のような状況のもと、国内債券においてデュレーション調整のための売買を実施しました。

<運用結果>

9月度のユニットバリュー騰落率(=時間加重収益率)は前月比で0.99%の上昇となりました。

設定来のユニットバリュー騰落率は31.74%の上昇となりました。

また、9月末のユニットバリューは131.7447となっております。

<変額年金(最低年金原資保証タイプ)の運用状況>



ユニットバリューの推移と運用環境の推移

ユニットバリューの推移



時点	ユニットバリュー
設定時	100.0000
2020/10/31	122.2668
2020/11/30	126.2775
2020/12/31	127.3124
2021/1/31	127.1090
2021/2/28	127.4436
2021/3/31	130.2026
2021/4/30	129.0676
2021/5/31	129.5687
2021/6/30	130.0178
2021/7/31	129.4761
2021/8/31	130.4468
2021/9/30	131.7447

運用環境の推移<直近1年間>

